

## ■ 1980年代以降 ■

聞き取り調査によると、1980年代中頃以降、千葉の野山の複数の場所に複数回、放逐したとの情報が得られ、現在生息している個体は外来生物である可能性が高いと考えられます。また、遺伝学の研究でもその傍証が得られています（コラム参照）。県北部地域においても、印西地域や東金や山武地域で野外放逐した情報もあり、これが分布拡大の大きな要因となっていると推測されます。



写真 印西市のイノシシ（自動撮影カメラによる撮影、2011年11月17日）

### 新たに野外放逐したという情報

千葉県内におけるイノシシの放逐地点に関する情報

放逐地点	放逐時期	放逐情報件数
鴨川市東部から君津市南部	1985-1988	4
鴨川	1995-1996	2
天津小湊町清澄		2
勝浦市大森	1985	1
勝浦市大沢	1993	1
市原市馬立		1
鋸南町中根		4
君津市松岡	1995	1
下総町	1995-1996	1

（参考文献 2.5）

### コラム 千葉のイノシシはどこからきたか？（遺伝学の研究結果より）

千葉県内のイノシシのミトコンドリアDNAのコントロール領域の調査

- ・ 昭和20年代の県内のイノシシ標本（4頭）はJ8タイプ
  - 東京、群馬、静岡などの従来から関東にいる特徴的なタイプ
- ・ 近年のイノシシ捕獲個体はJ3とJ10タイプ
  - 関東平野で新規に拡大している場所のものと共通

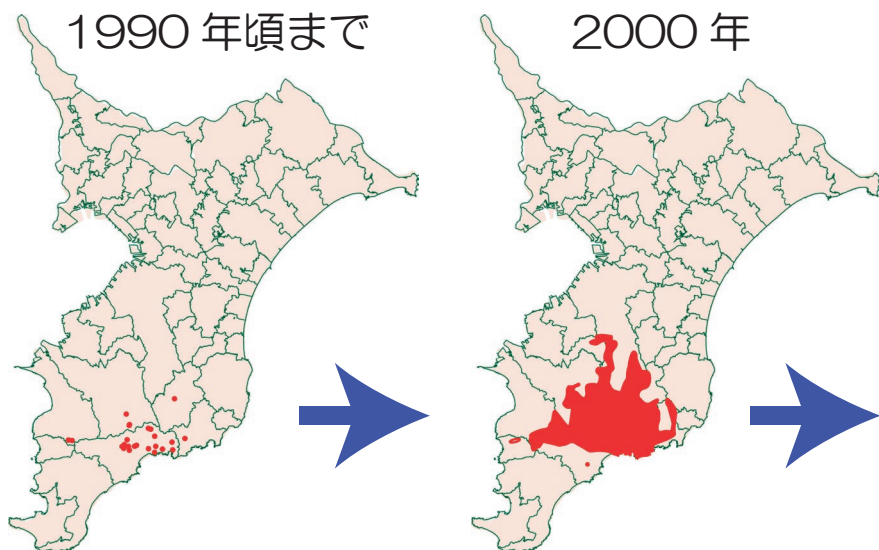


千葉県には、他の地域のイノシシが導入された可能性が高い。

（参考文献 6）

## イノシシの分布状況

1980年代中頃に野外に放逐されたイノシシは、1990年代には、房総丘陵の広い地域に定着し、分布域が拡大傾向にあります。  
(参考文献 2.5)



2011年現在、右のページのように千葉県北部地域からも生息情報が得られるようになりました。これは県南部からの分布拡大の他に、たとえば印西地域のように、現在も野外にイノシシを放獣されているためと考えられます。

### コラム イノシシの野外放逐について

野外に放逐されたイノシシは、ほぼ確実に農作物被害を発生させ、千葉県の農林業に多大な損害を与えます。雌雄の複数個体を放逐した場合、その地域で繁殖、定着する可能性があり、個体数増加による被害量と被害地域の拡大を招くことになります。野外放逐自体は、ある1地点で一瞬のうちに行われる行為ですが、その影響は、広域に、長年にわたり発生するため、社会的責任が大きい行為です。

2009～2010年度

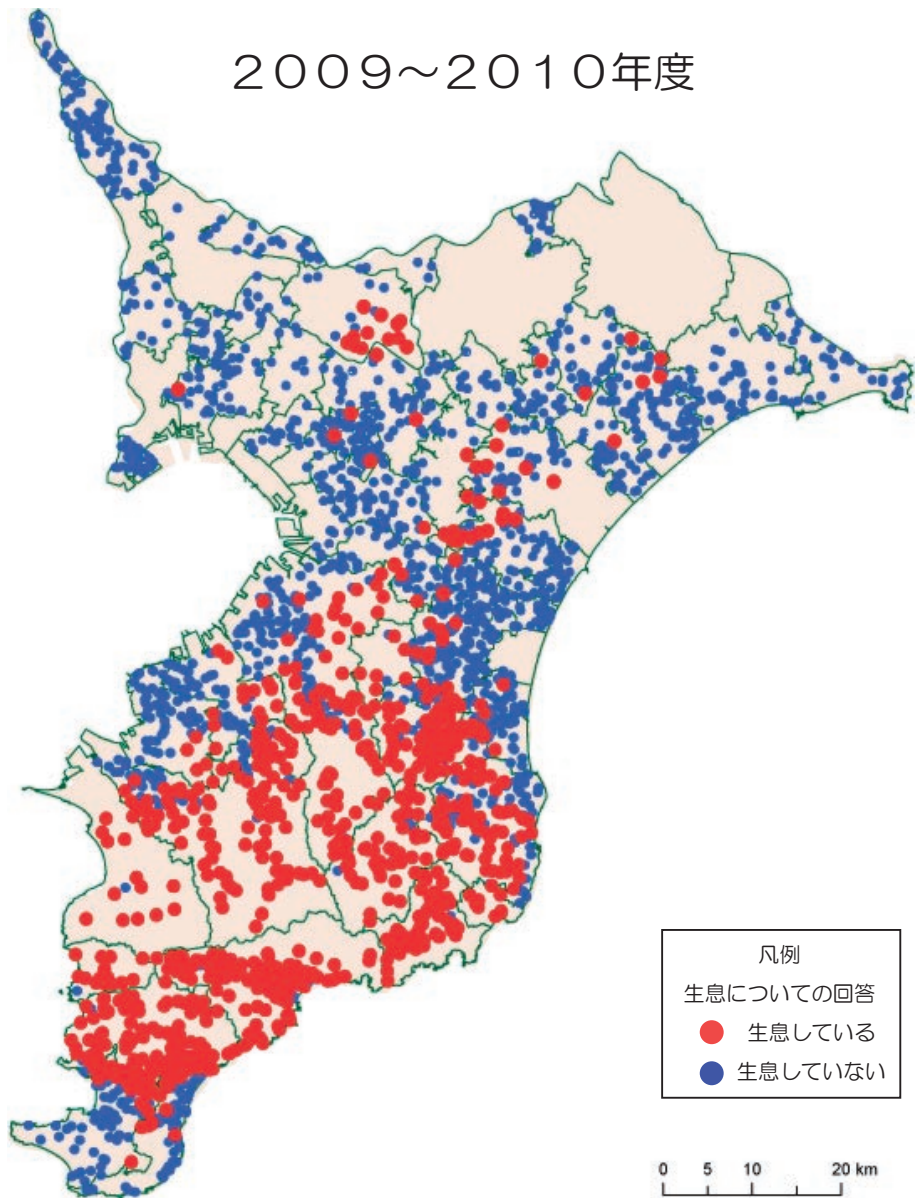


図 農家アンケート調査によるイノシシの生息情報点  
成田市、香取市、習志野市、市川市、流山市、東庄町、白子町では調査を実施できなかった。

## 第2章 こんなに被害がでる

### 被害はどこで発生しているの？

#### ■ イノシシの餌場になっている場所はどこ？ ■

かつてイノシシが山にいた頃は、田畑を荒らすことはありませんでした。ところが、最近の集落には、収穫残渣、生ゴミ、放棄竹林のタケノコ、家庭菜園の野菜や果物などイノシシが安心して食べられる餌が豊富です。イノシシが食べてもあまり関心を示さないでいると、これらを餌にしてどんどん殖え、ついには農作物のある田畑を荒らし始めます。



写真 タケノコをあさるイノシシ

### イノシシの行動パターン

- イノシシは人間活動が活発な場所は避けたい
- イノシシの生息場所に近いほど被害が発生する

#### ■ どんな田畑がイノシシに狙われるのか？ ■

イノシシは極めて臆病です。人を避けるため、人口密度が低く、人家や道路から遠い田畑が格好の標的です。また、普段は森林の中よりも山際（林縁）や耕作放棄地に生息しており、これらに隣接した田畑や移動経路となる河川から距離が近い田畑が狙われます（右下図参照）。人気のない谷津田や孤立した田畑は、イノシシにとってお気に入りの餌場となります。



水稻の食害



水田侵入による  
踏み倒し被害

